

[C部会 発表原稿]

Web等を活用した研修の拡大と充実を目指した
総合教育センター研修講座全体の見直しについて

岐阜県総合教育センター
指導主事 青木 智宏

I はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大の防止を図るため、当県では4月から集合型の研修を原則中止とし、受講者が所属校で受講できるWeb等を活用した研修（以下「Web型研修」という）を実施した。令和元年度から導入している教員研修申込システムでは、研修内容を示した開催要項の公開、受講申込及び出席管理などを行うことができる。このシステムを利用しWeb型研修を開始したが、当初は講座担当者が開催要項にアップロードしたテキスト形式の資料を、受講者がダウンロードして研修するテキスト配布型中心であった。

そこで、Web型研修の拡大と充実を目指して、講座講師が作成した動画を配信するビデオ配信型、Web会議システムを利用するビデオ通話型の講座を増加させる取組を行った。その結果、4～6月に行われた77回の研修の内、ビデオ配信型の割合が9.1%、ビデオ通話型が10.3%であったが、7～9月に行われる86回の研修では、ビデオ配信型が17.4%、ビデオ通話型が67.4%になる予定である。本発表では「ICT環境の整備」、「担当主事を対象にしたWeb型研修の研究会」、「受講者に向けた受講方法の通知」の3つの項目により、Web型研修の充実に向けた取組について報告する。

II 取組の内容

1 ICT環境の整備

(1) Web会議システムの増設

当県では専用機器などを使うことなく、手軽に勤務校で当センターの研修を受講できるWeb会議システム（Cisco Webex meetings）を平成30年度から開始した。昨年度すでに契約していた6ライセンスを20ライセンスに増設し、同時に複数の研修講座で利用できるようにした。

(2) 接続テストの実施

各校でWeb会議システムへの接続を確認する作業を行った。その結果、これまで主に県立学校で活用していた県立学校Web会議システムを各幼稚園・幼児園、各市町村立小・中学校にまで拡張し、県内全ての教職員が接続できる状態になった。

(3) YouTubeチャンネル「岐阜県総合教育センター」の開設

ビデオ配信のためのYouTubeチャンネルを開設した。研修申込システムへのログインにより、受講者のみが視聴できるようにした。

2 担当主事を対象にした Web 型研修の研究会

6月10日(水)と12日(金)の二日間、岐阜大学教授加藤直樹氏を講師にお招きし、Web 型研修の研究会を実施した。二日間で延べ45人の担当主事が参加し、大学の遠隔授業を支える情報システムの構造や、テキスト配布型、ビデオ配信型、ビデオ通話型の特徴と効果的な実施方法について講義を受けた。単一メディアを利用したコンテンツの品質向上よりも、複合メディアによる学習効果を高める設計の重要性を示していただき、今後の研修講座デザインに大変参考になった。講義の後にはパソコンを操作しながら Web 会議システムと、YouTube チャンネルの使用方法の実習を行った。

3 受講者に向けた受講方法の通知

受講者に向けて遠隔研修を受講する際の注意事項を通知した。主な内容を以下に示す。

- ・研修講座を受講する目的を明確にする。
- ・一人で落ち着いて受講できる場所を確保する。
- ・事前に資料の印刷や、接続テストを行う。
- ・接続に不具合があった場合の対応を確認する。
- ・受講前に管理職に受講開始の連絡をし、5分前には受講場所で待機する。
- ・受講後は管理職に報告する。
- ・著作権を侵さないように配慮する。

III まとめ

ICT 環境を整備し、指導主事に講義を行い、受講者にルールを伝えるなどで、Web 型研修の拡大と充実に向けて取り組んだ結果、複合メディアによる研修実施が可能になった。受講者への研修後のアンケートで、Web 型研修の受講満足度を問う質問に対して肯定的に答えた割合を昨年度と比較したところ、外部講師による

選択研修においては有意な差はなかった。Web 型研修でも受講者の満足度においては、集合型研修と変わらない研修を実施できたといえる。しかし、職務研修として管理職が受ける研修では、満足度は平均で約 20%低くなった。これらの研修では肯定的な記述 59 件、否定的な記述 41 件であり、否定的な単語の種類と出現数を上表にまとめた。単語の種類としては「資料」が最も多く、資料から自分で学ぶことへの不安や心配がみられた。次に「交流」や「情報交換」に関する記述が多く、受講者同士での意見交換を通して自分の考えを深めたいという記述があった。つまり、Web 型研修の満足度を上げるには、重要な部分を強調するなど受講者が分かりやすい資料を作成することと、受講者同士の意見交換の仕組みを準備することが重要になる。引き続き Web 型研修に対する受講者の評価を分析し、研修講座の特徴に合わせた Web 型研修の実施方法を検討する必要がある。

単語	出現数
資料	11
交流	9
情報交換	6
声	3

表 単語出現数(全記述=41)